

清流

題字：芳野 充

平成31年3月30日

第27号

発行所 加来不動産(株)

発行者 加来 寛

北九州市小倉南区守恒本町1-12-23

穏やかに

静かに

清流のように

「命」を使わせていただく

前号で「謙虚さがなくなる兆候十四項目」をご紹介させていただきました。今号より、一項目ずつご紹介させていただきます。一項目は「時間に遅れだす」です。

恥ずかしい話ですが、わたしが二十代のころは「遅刻するのは当たり前で、悪いことではない」と思っていた時期があります。それは、「わたしは忙しいのだから、仕方がない」という自己中心的な考えからです。それは、家庭内でも同じ考え方をしておりました。

そうなるとう然のように妻との関係は良好とは言えない状況になります。いま考えれば当たり前のことですが、当時は本当にわかっておらず、はずかしい限りです。

さらに恥の上塗りのお話になるのですが、このような家庭環境を良しとしなかったわたしは、こともあるうに池田繁美先生にグチを言うように相談をしたことがあります。わたしは悪くはない、あくまでも妻が悪いんだ、という一方的な話です。わたしはそのようなワガママを当然ながら池田先生はお見通しです。しかし終始おだやかな雰囲気であつた話の聴いてくださったうえで、このようにおっしゃいました。

「加来さんのしたいことを優先させたいのであれば、先に奥さまのことを優先させてあげてください。自分のことを優先して、相手の時間や気にしないことは、相手の『命』をムダに使っていることになります。『時は「金」なり』と言いますが、『時は「命」なり』なんですよ」

表現に矛盾はありますが、はげしいカミナリをとんでもおだやかに打たれたような気になりました。そしてこのような相談を池田先生にしたことを、とても恥ずかしく思いました。

たしかに「命（寿命）」とは時間の集合体です。自分を優先するあまり遅刻したり、期限を自己都合でのばすようなことは、相手の「命」をいい加減にあつかっているともとれます。

いま仕事においても、家庭内においても時間を大切に使用しているかわれると、胸をはって「使っている」ということは言えません。ですからいま一度、時間は「命」であり、その「命」を大切に使用させていただく、という思いをしっかりと胸に刻み込みたいと思います。

加来 寛

